



八五
6043
2



小町躍第一

春下

花

雲と見え目らへもなり花はぬ
花乃香気おすみてく風う那
根籍とをのうておすう落たうか
千中れおすもをれ一本うれ
花のこもは火うもをう去の風
みとんぬ人いむとくまううう
くもはぬたき落すわのられ親
くわと落す十分あやうまのぬ

アサキ



幸和

同

同

孝晴

色一

休音

横山重

志月うらやまのつゝまもわ浦の波 同
 花小風の捲葉のあつたお世に言 同
 うしとねの舞や目くらまの舞に茶 同
 子校の花わりの舞やせん鞠の庭 同
 やあふりうく心に対して種は事 同
 りあさうりいりてうん種は海の家 同
 けきさういり可はうりさう花は友 同
 大鼓とあはしんまふ心乃園とさ 忠也
 山坂いりりるにさう花はえんう那 意敬
 と花運まの花もやるれ所いいと 永治
 うささわやまやまやまといと花乃風 貞盛

三十一

花の葉のうらやまのつゝまもわ浦の波 宗除
 目にもして花の目くらまの舞に茶 昌意
 海にうらやまのつゝまもわ浦の波 同
 さうらうらうらうらうらうらうら 政公
 乃らうらうらうらうらうらうら 弘永
 びあつとあつとあつとあつとあつと 寛記
 三月いしんまの雷ゆり師をさう那 信元
 海にうらやまのつゝまもわ浦の波 同
 花の葉のそむ心やのわらう那 同
 さうなつた丸花乃独う八重一重 定重
 わささむやいさう師に漢の波 如貞

風のよもさうくね花れ枝りり
うせれま乃らゆらとれのみさうか
さどりよとを即くうおれまうひ款
咲ららわ天道は東くも乃るぬ
花れまらる目や正身れ生かたけ
水くむららわ浮織波のあわ
みく野れこのひや花乃業因志
ん物み花うささうわくくれ
わくさあまやいぬせねやむら精
今納んましのまう小橋れ花美酒
んさう花忠度のくく名うくま
良和

同

同

活

言

正辰

兼名
昌長

啓信

重茂

重俊

三

くくさふそまら花の書そひらう
名はけり海を月とくれ
みまこれかあさう居る花とけ
昔ららとあくされね世やむさうり
奇はわららびうし燈れ花乃香
曾然うんとびわく言程のむら
去一本田舎と花のさやこりゆ
咲は若らうていあもあくあうれ
花とららく酒み榮花れささ
わらそ阿ま陰陽師より花の風
あそんれ縄志うさうおれさ
浄近
政武
去札
常成
重房

繁秋

一

治定

貞室

同

同

浄近

政武

去札

常成

重房

花ゆするは曲やうらさきま風
 氣くもりのみらるれ毒の枝葉も
 揺らてをるるらんやいろこの
 侍花のまへうさうみや峯乃雲
 折ららん心や花のわらう
 風波安年やわらうんもまれば
 しのうるやけむととれん花袋
 匂い来る風をそきれう便直
 長るの禁好物うらさ乃時
 行く山うらあくせぬ花のえうか
 奇くくみ侍お作り本れ心えんれ

永之
 久之
 友正
 後之
 定次
 重徳
 玄佐
 正辰
 宗勘
 正重
 定成

鬼女たうね人も花うらさ
 あはるる大舌踏道小そりりれ
 まるれわさううら目よそ初人
 蹴家鞠のわらうらや家小毒乃陰
 人市やま事一やうさ花の陰
 食茶や抱子さけさるむ見月
 花乃陰うさうくりや葉并苗
 うらさうら物よ花ひら
 ま毒うらまおわがれさ菩提心
 むの香やあうね山路の案内者
 つまここれ三里由りくうのれ花

可雲
 徳元
 春可
 玖也
 方由
 重方
 重庸
 宗澄
 素伴
 親房
 重貞

細の目よりたまたれ鞠場の花は風
 不乃お母つささなる様や長来寺
 此れ雪らるるかねの音や鶴毛く
 ゆこらくれ花はるやゆるくと観世音
 時をさるるふりしと法とく風もふ
 法のと那咲や正像の来れ雲
 りううくわやみ妙情とるみの舞
 花乃教とけりうらわ本をれめつ美人
 下京の花はれまやこのかんしとれ
 わりいやくくう記の枝そよ落花の如
 なる人やわらうと燈はるかほりり

慈仙

同

休甫

丹波 正好

加賀 正種

信州 正勝

奥田 政之

津田 重香

三井 近次

大板 秀閑

重次

集外六

誰をんよと花や氣くらり枝くらり
 くらん乃見あをさるるや花乃浪
 又文字の言集れ花乃南枝の那
 そとれれ乃見事一やとれその花
 枕着乃誰とさうしわそくれ乃露
 吹風まふ玉りけくわ花は露
 みらひとそくそよよ阿弥路の麓の巻
 きしはれ花の定座や床乃と
 歌ともゆくと集家花うしと世山
 多風舟人もあなりくらりなりと
 哲れうけうと世小何うむとくく

合月 不益

三木 勝政

三井 如自

元隣

上板 十牛

世言 文索

業成

重賢

久任

忠清

林 宗甫

極楽う花小あくら此畧とかり
 上戸多小解事やと一花此陰
 世れ人の志きうくもさそむ遊
 くくくくくくくくくくくくくく
 奇や詩の作もりんくく木と此花
 行やして山路くくくくくくく
 帳の囲い花の波る此細代くれ
 花れいろいりくくくくくくく
 同くゆけし心もくくくく落花く
 曲香乃酒やあく後乃花れく
 花小心みるくくくくくくく
 栄種 水元 心校 林元 武頼 水童 永学 政吉 同 良安

花小心みる

前より立くくくくくく花れんから
 中立は花約えくく茶の湯く
 妻れ多のいくくくくくく小袖く
 割れやも山事やと記くくく
 是乃えん小解人くく源氏酒
 みか人 志きくくくくくく花の雲
 見はもわくくくくくく目早く
 侍奇くくくくくくくくく
 見くくくくく人 志きくくくく
 舞小解ハこれくく妻れめくく
 磔吟と繪教りくくくくく
 由信 棘口 宣次 森 政長 西 泰次 實次 重直 友定 安永 松斗 清光

水れま波しそ風のけりりいふ
 瓶いしそすあいらうられちとまき
 月花の名所くれわうしこれ
 寺人のちり杖なしし毒の枝
 経冊とはくろくやいふこれ果さあ
 飲くすう吉野の花れりりけりた
 けらあはとくしとまかしし花の樹
 花ふるら紙かすつこのくらう燈れ勢
 りるむとらむ盃やうそれ酒
 古寺やうとま未母あう花の種
 花いさうりらうわ徳方う一人心

賢也
吉里
道軒
山井
密雪
豊實
随喚
順三
武
次友
定行

かけ物れあ玉とくうま花う那
 番花紙はししううわ法師いふ
 さうまやあのみけしむれ花の友
 因縁とくも此成や花乃庭
 神あれ花小心や本帛あうと
 花と酒笑しあされや人ううら
 山乃ううれしとまもあう花の家
 世れあか今朝あうけ庭のう
 吾かううは海山の花わうう歌
 との川うう野山れれわ人ううり
 鳴くれ是根や波の花ううけ

清純
孝後
重春
孝春
正業
易次
正貫
重因
可言
助久
重澄

一りんれ花や青くしゆらわ
 赤めめくく下戸かわくしれ花を酒
 貪欲いころ花のけしし子
 序や奇のころ花のわさし
 さ不及れつうしとまを花乃ぬ
 苦根いころ花れ実生しれ
 春永乃しと紫に花の方りし
 月花ハ天地わくく足ゆれ
 月をとりころ安永せ男う那
 月毎ハ日夜都言の足物うか
 舌いられま紫の花れ根うしうな
 同 同 親信 同 同 同 同 同 同 同 同

云の紫や細せてもにさるゆり花
 うも世うも花れさる同や無悲れ果
 まや繪師「四方」都乃花けし
 聖人のあふれしもの文もうし
 花をて首のころもわはくさ深
 あくろやまこ木石しりわくまれ風
 目結しつとれみうわらう花さし
 花れ神もくしつやま紫のあされ波
 舞か舞しつとまてしわさくち
 咲くし心木紫の月やふくし
 けえまし神代れまや花れ父母
 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

花山にまうらむとてしりしわけくらね
 海山の一門よりしりし花の波
 花蝶をむすらんわらうつり舞
 舞小はくく人や縮むれ昼もろね
 神木れ花よりしりしわらうつり
 山をしりしわらを月れ雲たえん
 八重咲や御法乃花れ神の事
 襟身を羽衣の曲なりせ舞乃舞
 思念れ花の美をとりしりし
 わらうつりわらわりのしりし花の
 神勅ら雲にまうらむ花のしりし
 同 常展 同 同 同 同 同 同 同

^懐雪のりわらむら白紗れ庭乃しれ
 花のの露や冷らに玉じすい
 ろしせらわ水生木花瓶の花
 火よりして素らわ後れ花さうを
 物ありし心入しりし花乃尚
 酒をく紫梅寺の花らんり那
 花いつし花のしりしことひしり山
 目れ玉わらとて木本けしりし花の露
 花れまんやゆめし舞花らんら火
 ありし月夜の花の影法師
 りやうしりまれまうらむ白紗ら那
 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

國くハ花のさやこれ校系ハ
 祚本れらるや所住の朝印も
 人さるや山修のさるや大天狗
 去れ日の威勢さるや花の時
 石小花さうせくさるや修り庭
 わさるさうこれと都の花さうり
 印さるさるふや右今れ朝修文
 右世継の毒やらるりのさる子
 太さるさるりらるまわ花れさうり
 かさるさるさる花や我堂のちりれ
 咲花や系さる神の沛さる神

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

去跡りや花中一味のふやとり
 花さういと雲臥さうり天王寺
 花さういハぬさ袋さるやさいり神
 慈悲心や清水山の花れいら
 心さる木のさるさるすれさうり
 神系乃花や八雲れさるさるさ
 八尊れさるさる何世をさるさ
 毒の毒とさるさるさるのぬさる

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

様

けりさるさるさるさるさるさる

知徳

とを梯印くく雲井や後花堂
 小 不雲
 年役小先さけ庭の地さく
 高 時次
 高政
 友正
 高教
 有哉
 定清
 但秀
 重徳
 重成
 宗順

さうりさくくしんくさくしんくりそ焼梯
 祐宗
 とのつ〜花堂まらわ見さく
 以白
 年ふとにむや〜中乃い名梯
 良景
 兄中〜南校中校れ見さく
 瑞行
 興 文
 信元
 春清
 重良
 正利
 資家
 未及
 元重
 花り〜る回舎よ系わ梯町

山橋
 親房
 長女
 長女
 正冬
 命
 長
 頼富
 康吉
 同
 暁
 以平
 任東
 吉政
 孝成

上琴
 意相
 明海
 岸
 有惠
 湯
 春行
 吉
 清久
 廣瀬
 久治
 金
 未存
 榊
 信之
 可春
 誠之

二

万葉の我用つるを思さるる
 年物もも尋ねのん世や仔細梯
 手つるもわらむ世やいさる世さるる
 吉野見のりさして系らるる山梯
 鬼さるるをれらるるを部さるる
 破子もそへるるを室北見梯
 山先らりするを越しさるる梯
 わつらるる屋の四方越たもそへの森梯
 ちるる花乃るる魚り新系らるるを梯
 光季
 重直
 正景
 貞富
 由的
 圓長
 頼智
 玖也
 保好
 俊宣
 嘉治

右枝の花れ隠居のりさるる
 山風舟里の魚りせらるる見はるる
 咲らるるのむらも也系らるる
 ねらるるの思ふもそのねの越梯
 花のさるるすかりらるるわらはるる
 ぬいさるるびららるる入らるる家さるる
 誰かとも思ふもそのねの越梯
 皇朝の名も小皇海乃さるるこれ
 ちりはれしともさるる入らるる家さるる
 皇孫の花もわらひ思はるる
 貴とも物ららりけはれせん見梯
 尾安 重栄
 藤井 玄次
 川崎 良吉
 小泉 忠弘
 十三歳 重勝
 町田 未覚
 中列 祐武
 親信
 知徳
 清平

風じうよ方や畧門乃家とくく
 じうじうく極くや祖文焼とくく
 足ぬ人乃念わくくこの山橋
 けやうらや襪襪の上れ兎とくく
 花よいとよらうや和奇れい急梯
 友のうらわくや奥のりあさくく
 勸徳乃神や橋本れ伊勢とくく
 本れくくの法師よ知ぬや山橋
 ひくぬいとくよあく焼ゆくく
 塩竈の花やさくくてらうれ浦
 ち月くくの橋や散くくを于渡
 友貞 同 兼言 同 常辰 同 嶺利 表

切くきく産れえ入やくくまれ家梯
 兎乃名れうらうは色りく橋う梯
 花小くじ母くく野もくか江産梯
 根やゆりく指や涼山とくく
 若草や桜くくくく壯れ山橋
 じうくわくくくけ花入や江産梯
 日裏く一本れくらのとくく
 九重の町作りくくその急ゆくく
 花嫁とよらわや縁のとくく橋
 大橋や水くく急くくて花乃急
 上代のらうくくはゆりて山橋
 同 同 同 同 同 同 同 定親

花よりわらうとにかりく焼梯
 山姥と名母こそたてき梯いし
 うせ様うらやこれ世よ江人梯
 新室うら木れいさの森さく
 崎梯とうはいはくも老の飯
 みる人も寺入とせり鬼さく
 花い咲若れわらうわとを梯
 梯いも根りうゆりてわ若燈高
 ありしお小伝せ梯とわ神の幣
 むくくわわらう一門いあさく
 後い雅花舞とる人鬼はく
 信世 宗雅 有哉 智詮 正朝 岡 方安 政之 冬立 昌房 同

第百七十四

花母似く人目とくう大梯
 花ころうわらうとむすいぬ系梯
 ころううさんぬといあはく
 兄うきし門とらりせり家さく
 一系わ花のまわられし何梯
 控うこ世わ若梯のいぬさく
 目さしけ若山乃ひさいの大梯
 花壇やまはすういれ系さく
 ありしとてんせよ優婆塞焼梯
 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

梯綱 付貝
 海苔

くらひ屋さうや実志やう酒の栲綱
 裡の游木より嘆のやまきさうう綱
 むらりやまきえさううさうう綱
 実志本にのちりもあしう栲綱
 雲よりや朝日いさなはらう綱
 雲さしやまきえさううさうう綱
 けささしやまきえさううさうう綱
 淡やまきえさううさううさうう綱
 ゆうらうに波とさううさうう綱
 栲綱けりさうう栲綱やまきえさうう綱
 浪の花小あさううさううさうう綱

長吉
 重勝
 長運
 一村
 同
 昌意
 静壽
 俊貞
 智徳
 公明

枝葉とや尾いまきさううて栲綱
 大海や花入さううさううさうう綱
 花さしははらうさううさうう綱
 化花や波さううさううさうう綱
 陰さうう縁樹もさううさうう綱
 波の花とさううさううさうう綱
 さううさううさううさうう綱
 新やさうう松帆の浦れさうう綱
 其伊勢れ浦乃さううさうう綱
 打ち糸綱さううさううさうう綱
 さううさううさううさうう綱

和年
 信元
 但秀
 元徳
 重勝
 遠川
 重貞
 重昌
 友勝
 貞富

花をみわらひてむすこさく貝
さく網とに網とに小舟か
橋葉やこもみひり橋戸
なまゆすこそ作られさく網
みみはくし抱とそ思ふさく貝
こころあよとそあやけ橋の
われかりと波とそあてれ橋網

武田 詩信

保友

重頼

宗言

好子

昌房

三圃

海棠

うらうら本末のころやを眼
海棠や咲くらるまて一花あり

卷文

重頼

おりのやとせよかいつの花は
海棠は祢かりのまよひわ
かいつまつまくわ移つる胡蝶は

常原

信元

立圃

梨花

^{聖文} 梨のころかうことすとにう縄乃糸

年光

亭夷

ころまわつたのころしれ花え
まよひあやむふまよひあやむ

成安

卷文

蛙

和らびし師通り此真と蛙うれ
 かい子れし湯うわむじ沈乃水
 哥いんさ文東二道の蛙う形
 水りり多しや足ゆらんなく蛙
 今しむと古守れうらや引る子
 井の内れ蛙乃秋やかうし藝
 能因う奇てゆきするわすり蛙
 わすれいめらむらひうら軍うな
 軍うい志つうきわらういさ蛙
 りみ捨めさう蛙の志さけりみ
 うらむしと蛙乃し急や奇合

貞徳 道的 貞室 光重 猶雪 雲竹 存存 正長 山重 有哉 三國

若新 付葉

淋然くわと若みせうれらり新
 きくく小袖わきまろ小新うね
 若新れのわらうらうやあ乃新
 淋唇の酒ととくむじわ新れ実
 わ新とけりあをぬるや淋の糸
 けくねとと淋の糸よわのわり新
 王う新いもうこ口りこのも新うか
 木うはいし行しは真れらり葉
 くらあゆむいんそん控玉のたな

成政 不見 友貞 常辰 不競 貞成 林元 園行 高朝

暖かい穀類くらみくもさうしきれる
くまうまふいさくく水波のわり歌
花よりと小歌とすくへく野川
定親

三月三日

付林蓬餅
鶏合 雛遊

曲ありれ高き一河乃乃たれ飛
きくくすいり歌はさう月波のく
初葉の餅めりくくくさ良然うか
らくくすといくく下言れ蓬餅
花のあとももれくいひるさ香れ
孫よりくくあ乃乃くく蓬餅くら
厚成

神農う草紙味くくく餅
くくいご日の夜昼うとひりら
わくくくく印まあを孫く葉乃餅
人きいさとうくくくく餅
桃りられ花見小神やひのさ蓬
くく酒くくくやのさくく桃れま
あさやくくく孫よやあさりの酒
三缺のくくくや継木桃のさけ
桃乃枝や白くくくく八重れ桃
くくく酒くくく味くく作く卵
うれくくく子あなれや桃乃酒
貞富

廻

音
友次

利春
貞盛
松滴
久次
直久
正重
和徳
良景
富平
貞富

桃の酒や二日さくくと日あひ
 いさくわはくうさうさ波うら
 孫とさわわらるる自月れり合
 奇なりしてさうわさ佐の鶴合
 まけあはは瓶くらきてとりあつせ
 花のまにうつりさなまわ桃乃酒
 秋いよれうわわ桃のまよと
 十う魚りともくうくわ桃乃酒
 折流や桃れやらさひりの枝
 菊の古酒新酒さなりさう乃花
 さうさい梅酒のまうりれ酒

一正 和年 不競 清平 好女 同 妻 正朝 政之 信世

さうさい梅酒のまうりれ酒
 鶯のうらと孫よわきよれ遠餅
 物いよそ味とわゆさ桃の酒
 さうさい梅酒のまうりれ酒
 わう酒とも花黄多し菜乃餅
 さうさい梅酒のまうりれ酒
 曲あわねされりさう桃乃酒
 河うさきう曲水とさうさい梅
 小舟さうさ曲あわらさ花乃えん
 餅の菜ささい梅酒のま

同 常辰 同 同 同 同 同 同 同 同

神濁

折各とゆつゝとわ岩はけり
 花今とわのわはひけりつゝと
 川まれ跡ふきりつゝ餅はけり
 羽衣と蝶のまほつゝわ岩はけり
 うせ継乃念力とせつゝつゝ
 念給の内もつゝつゝわらけり
 りきりらんらんつゝつゝ餅つゝ
 めいゝつゝわ半昔よ岩はけり
 ねとつゝわつゝ餅とつゝつゝ
 うらんまれ種や妻つゝつゝ岩はけり

春可
 貞徳
 重光
 寛政
 太安
 一通
 修人
 久任
 秋月
 泰重

石竹れとの一歌う岩はけり
 岩わりのつゝつゝつゝつゝつゝ
 折あやつゝつゝつゝつゝつゝ
 つゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝ
 形あそつゝつゝつゝつゝつゝ
 葉のむれつゝつゝつゝつゝつゝ
 根つゝつゝつゝつゝつゝつゝ
 友あつゝつゝつゝつゝつゝつゝ
 珊瑚珠つゝつゝつゝつゝつゝ
 折つゝつゝつゝつゝつゝつゝ
 天つゝつゝつゝつゝつゝつゝ

方孝
 宗且
 不及
 吉孝
 満長
 才安
 政之
 宗言
 常辰
 吉園
 同

庭の 頂上四方の交りる若竹一 同

莖

すれさくはわしけしむしむし
まきして木れあきくわ垂莖 稷
年光

款冬

山吹のつらむい砂金つくる那 實方
とく若れきわ白うのこく孫しか 負
あゆしねりやと菱折あこく 嶺利
山つこの花入やみか金葉銅 親信
新

千金といさわまつさ花乃交 空

春草

とや非れけらう道具眉はくを 照星
目乃う人の若いささく若わさ人 良成
うらむ根しゆふさく山あうん 文雅
わえられく是味吟とけう若う那 光有
山りささくさくさく若れ若葉之れ 時秀
津のささく生かぬらわ是阿さ人 但秀
ねささくわけし流席り是あさ人 有哉
けいさくささくささく若れ若葉之れ 俊彦

じく 生く 蒸し 常し 常し 常し 常し
 ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき
 是阿 是阿 是阿 是阿 是阿 是阿 是阿
 じく じく じく じく じく じく じく
 いと いく いく いく いく いく いく
 教 教 教 教 教 教 教
 天 天 天 天 天 天 天
 弘永 得松 不二 政定 了雨 定親

藤

松 松 松 松 松 松 松
 まう まう まう まう まう まう まう
 春 春 春 春 春 春 春
 未長

右い 右い 右い 右い 右い 右い 右い
 神 神 神 神 神 神 神
 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏
 祚 祚 祚 祚 祚 祚 祚
 若 若 若 若 若 若 若
 香 香 香 香 香 香 香
 堂 堂 堂 堂 堂 堂 堂
 教 教 教 教 教 教 教
 咲 咲 咲 咲 咲 咲 咲
 こん こん こん こん こん こん こん
 重方 方淑 空房 一本 貞徳 徳元 同 重頼 空存 幸和 重庸

風をけし棚り波を浪をえんれ
 女波男浪おやこららふらの気
 かけくやまはけは乃花は顔
 若けらや何まはあめをむさうり
 門あり市とわなさん若のま
 松門とむらりとけらやあうら
 ひまの目わしおゆら藤りりれ
 申言しむの何とてさうらとら
 天蓋う餅のまへりけらあち
 松のねの岩間やはたさあうら
 釣うのわかからくいらりれさうら

同
 安門
 種彦
 宗之
 成次
 信元
 但秀
 安成
 常長
 士藏
 之真
 吉勝

松のすらさのらりあうらあうら
 若のひりさるれわのうららら
 さうれくわらあうらあうら
 若のたるわをいひのりし電の波
 丁のまともわりしおれ口若れ花
 園やけ切らうゆらやあうら
 神り波とや長段のさうら若
 扇棚とこれアさうらさうら乃花
 藤原れあうらうれうらあうら
 岸のうら浪のうらわらわら乃花
 水乃花いうおらうらてさうらうら

賀
 良安
 貞長
 金貴
 愈
 政之
 有哉
 清下
 宗之
 常長

又く好むやうらみおのちなうら
 龍舟や松乃枝よまはりゆりゆら
 ひらきわたるゆりゆりまよまはる
 かり物て花枝かさるや松乃枝ら
 四方山れゆふうらまらうら
 とうらまらや節れまらまらまら
 けりうてい程なまらわらるる花

資 同 同 昌房 同 同

永日

人あよかれと永まま日う那
 永ま日枝二百うらまらるる

盛澄

四

月いららうら日いららうら
 永ま日枝じまらゆふうら老まら

華和 但秀

春謝

名枝いららうら山吹わらるや謝まら
 けりまら謝まら清小いららるる源まら
 これやいまにわらるの細れ謝

徳元 山里 春倫

茶摘

茶とけららうらまらわらるる
 けりまらいららららららららら

一村 春奇

春時鳥

まわしんこゝまれんつむかひん
春いまこゝあつらむかひん
空咲乃栴花うまれやうよと

和徳

嶺利

宗雅

三月五日

まわ活かこひとやうまうし
川春花れんあまのわを衣紋
まわきふ又あつ春乃いづれ
鞠うらとわくろあゆりまれ言

公明

墨永

苗正辰

廣通

三月五日

いふこゆわせられ山くま去乃言
初宵のけりうねいつれまれられ
正月越とつこゝあつ春のうま
ゆく鷹乃そこのうらまの言

保友

為親

清中

定親

雜春

かけ勢うけみみの流りまの風
春風わけのりこゆれ和乃中
ころうせのま曲舞下ろ露乃いふ
江の流りまのうらまの系
うらまのうらまの鞠のわうらまの風

和徳

同

同

流味

董信

川崎の縁いふれまきまあり
 紅^世海やわたりまきくわらじま向水
 書患れわしまの虎乃男猫うれ
 おし人た方城まきね果や似我れ物
 奈良産うわいささう記れ神奉能
 と海らりわまきこまもんねまの海
 まくし今一塩やまきすまの葉
 春日日の所や々乃大じう
 多餅のまやあまこやうはまにたり
 水うけわろし世うり祝月
 かりせうしうたる民とや水祝ひ

表
 定親
 勝之
 重頼
 昌長
 加友
 元辰
 未元
 貞周

長春川
 下七終

ね連けくそあわくかりし向あねい
 船むらうしじし水うけねいれ
 ろねい実わらうりれなうらわ
 物あうもよる旨れ日乃塩干う物
 糸ゆらわうしこのまねれどりのう
 月わらぬまわじうし茶交うら
 三河わのねまうしも九款う物

董信
 宗三
 但重
 貞盛
 俊之
 三辰
 清下



